



“のいち動物公園 ボランティアズ” ～動物たちと来園者をつなぐ～



◆頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介します。：担当／島崎 則彦

皆さん、動物園で「たくさん生き物はいるけど、説明書きだけではちょっと物足りないなあって思ったことはありませんか。のいち動物公園は違います。一般の方から参加を募り、動物たちの習性や生活ぶりを説明したり、お楽しみイベントを行ったりしている「ボランティアズ」の活躍を紹介します。

↑おもしろい！



アシカのプールの周りに家族連れが集まっています。「皆さんオスはどちらか分かりますか：頭にコブがあるほうです」「食事はアジやイカなどの魚ですね」黄色帽子にそろいの制服で「ボランティアズ」が各展示場のスポットガイドをしています。「ではアシカとアザラシの違いは：耳たぶがあつて前足で泳ぐのがアシカです」

「へーえ知らなかった。おもしろい。子どもたちは目をまあるくしています。全身の模型や足型、ウンチの模型まで使って解説している動物もありました。分かりやすくてなんだか楽しい。」

動物好きが大集合



動物の世話をはじめ、忙しい飼育員さんは、来園者に説明する時間が少ないという悩みがあり、平成11年にこの制度ができました。高校生から80歳くらいの方までメンバーは現在65人。夫婦での参加や、将来獣医師になりたいという若者までさまざまですが、共通するのはもちろん皆、大の動物好きということ。メンバーは園が企画した催しのお手伝いや、ガイドツアーといった活動を行っています。それだけではありません。

自分たちで考えよう



「のいち」のボランティアーズのキャッチフレーズは「みんなちがって、みんないい」。さまざまな年齢や職業、得意分野のある人が集まっているからこそできること——人ひとりが考え、みんなで作る「自主イベント」が大きな「売り」になっています。木の輪切りに絵を描く「動物ペンダント作り」や「好きな食べ物なあに」「足跡当て」といったクイズラリー。顔や手に動物の絵を描くフェイスペインティングや動物折り紙教室なども人気です。

紙芝居はマレーグマやチンパンジーなど現在8編。飼育員さんから仕入れた不思議な習性やエピソード、目の当たりにした出産や子育ての様子など感動した「出会い」がどれも生き生きと描かれています。園内だけでなく、地域の催しに出向いて実演もされているそうです。

見て、参加して楽しむ



ほら、ちよつと興味が：行ってみたくありませんでしたか。来園者はもちろん、ボランティアーズも楽しそう。「初めは少し不安だったけれど今では生きがい」というメンバーも少なくないようです。園では第14期生のボランティアを募集中。「見て楽しむ」のほかに、動物たちと来園者をつなぐ「参加して楽しむ」という動物園のかかわり方も魅力的です。

編集後記

▼東日本大震災から早1年が経とうとしています。被災地、宮城県から講演に来てくださった女川町の鈴木さん、佐藤さん。また、岩沼市の小助川さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

広報を通して講演内容などを1月から3カ月連続で掲載させていただきました。被災者の体験談から、私たちが今やらなければならぬことの『きつぎ』があったと思います。それは、震災の記憶と教訓を風化させないこと。次の世代へ引き継ぐこと。いざれ起る南海地震でいかすこと。これらは、私たちに課せられた使命だと痛感しました。

（広報編集委員会）

【お詫びと訂正】

2月号の特集・祝成人おめでとの5ページにおきまして、記載誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げます。赤岡小学校の校章を上下逆さまに掲載してありました。また、集合写真の表示「野市東・佐古小学校」を「野市小学校」に、「野市小学校」を「野市東・佐古小学校」にそれぞれ訂正させていただきます。